

研究室紹介

建築学部 建築学科

【新機能型構法研究室】	島崎和司、白井佑樹
【耐震耐風構造研究室】	吉江慶祐、楊曉雨
【サステナブル構造研究室】	藤田正則、中村慎
【災害リスクマネジメント研究室】	朱牟田善治、落合努
【建築環境工学研究室】	岩本静男、藤本遼
【音・光環境研究室】	安田洋介、森長誠
【建築環境・設備研究室】	芹川真緒、吉浦温雅
【建築史研究室】	松隈洋、姜明采
【都市デザイン研究室】	曾我部昌史、吉岡寛之
【建築計画研究室】	中井邦夫、鈴木成也
【建築デザイン研究室】	六角美瑠
【建築史研究室】	内田青蔵
【住宅デザイン研究室】	鈴木信弘、菊井悠央
【生活デザイン史研究室】	須崎文代、印牧岳彦
【居住環境デザイン研究室】	立花美緒
【都市計画研究室】	山家京子、柏原沙織
【建築保存活用研究室】	野村和宣、塩脇祥
【不動産デザイン研究室】	高橋寿太郎
【まちづくり研究室】	上野正也
	Stanley Russell
建築系実験室	
建築ものづくり工房	

研究室紹介

大学院 工学研究科 建築学専攻

[博士前期課程・博士後期課程]

【新機能型構法研究室】	島崎和司
【耐震耐風構造研究室】	吉江慶祐
【サステナブル構造研究室】	藤田正則
【災害リスクマネジメント研究室】	朱牟田善治
【建築環境工学研究室】	岩本静男
【音・光環境研究室】	安田洋介
【建築史研究室】	松隈洋
【都市デザイン研究室】	曾我部昌史
【建築計画研究室】	中井邦夫
【建築デザイン研究室】	六角美瑠
【建築史研究室】	内田青蔵
【都市計画研究室】	山家京子
【不動産デザイン研究室】	高橋寿太郎
	Stanley Russell
建築系実験室	
建築ものづくり工房	

新機能型構法研究室

しまざき かずし

島崎 和司 (教授) 教授室: 12-35 内線: 3482

しらい ゆうき

白井 佑樹 (助教) 研究室: 12-15 内線: 3460

最終学歴/島崎 和司(e-mail:shimazaki@kanagawa-u.ac.jp)

1995 年 3 月 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程
社会開発工学専攻修了 博士 (工学)

最終学歴/白井 佑樹(e-mail:shiraiy@kanagawa-u.ac.jp)

2016 年 3 月 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程
環境理工学創造専攻修了 博士 (工学)

島崎 和司



白井 佑樹

研究分野 建築構造工学、鉄筋コンクリート構造、合成構造、耐震設計法、新機能性構法、

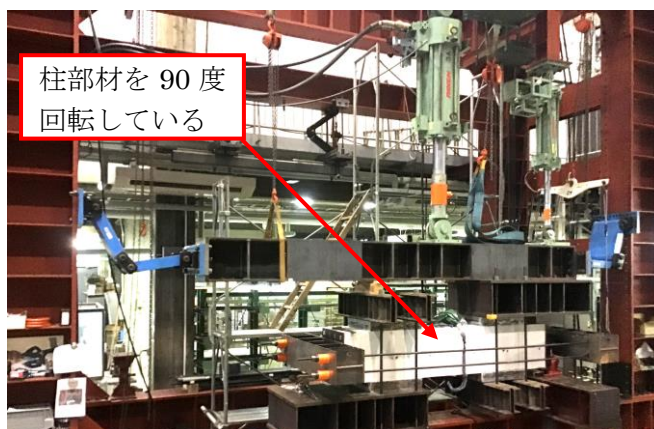
研究内容 鉄筋コンクリート構造、耐震設計法、免震・制振構造、損傷制御型新機能性構法

研究題目 鉄筋コンクリート建造物の地震時や常時の安全性能、振動制御型鉄筋コンクリート構造の研究、損傷制御型新機能性構法の開発、鉄筋コンクリート建造物の使用性能に関する研究、既存鉄筋コンクリート構造の地震時損傷リスクの検討

研究紹介

建物の設計法は、その建物が持つ性能を評価する性能設計法へと変化してきています。建物の性能のうち最も重要なのは安全性です。特に阪神淡路大震災以降、地震に対する安全性の要求性能は変化してきています。大地震時に鉄筋コンクリート造建物がどのように抵抗し、変形するか、中小地震時にはどの程度の被害レベルになるのかなどの研究を進めています。地震に対して最も安全性の高いとされる免震建物の長期にわたる変動が耐震性能に与える影響についても研究しています。さらには、新しい構造形式としてエネルギー吸収・損傷制御型 RC 構造やハイブリッド構造等の新機能型建築構法についても研究をしています。

建築物の“性能”が評価される今、社会の安心の礎を築く



鉄筋コンクリート造柱部材の構造性能検証実験

卒業研究テーマ

損傷低減型構造システム/アンボントプレストレスト構法/RC 制振部材/RC 造の地震後の損傷・性能評価/複合構造の接合法

発表論文

- 1) Yuki SHIRAI, Kazushi SHIMAZAKI, Performance of Prestressed Concrete Beam Incorporating an Axial Yield Damper Using Unbonded Rebar, Proceedings of International Structural Engineering and Construction, Volume 7 Issue 2, STR-30, New Zealand (2020.11)
- 2) 白井佑樹, 島崎和司, 粘弾性ダンパーを付加したアンボンド圧着型 PC フレームの水平載荷性能 その 1 静的・動的載荷実験による評価, 日本建築学会技術報告集, 26(62), 136-140 (2020.2)
- 3) 島崎和司, 白井佑樹, 平行配筋されたアンボント PCaPS 梁の変形に伴う軸方向力増大を考慮したせん断力-部材角関係, コンクリート工学年次論文報告集, 41 (2), 511-516 (2019.7).

所属学会 島崎 和司 日本建築学会、日本コンクリート工学会、ACI、日本地震工学会、EERI、日本免震構造協会
白井 佑樹 日本建築学会、日本コンクリート工学会

現研究室構成員: 教授 1 人 助教 1 人 大学院生 4 人 学部生 9 人

研究室構成員募集: 客員研究員 特別研究員 大学院学生(社会人)

耐震耐風構造研究室

よしえ けいすけ
吉江 慶祐 (教授) 教授室: 12-36 内線: 3483

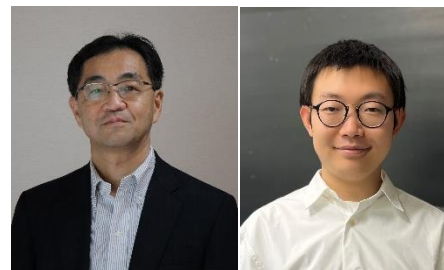
やん しゃおゆう
楊 曉雨 (助教) 研究室: 12-32 内線: 3490

最終学歴/吉江 慶祐(e-mail:yoshie@kanagawa-u.ac.jp)

2007 年 3 月 東京工業大学大学院環境物理工学創造専攻博士課程修了
博士 (工学)

最終学歴/楊 曉雨(e-mail:yang@kanagawa-u.ac.jp)

2022 年 3 月 東京工業大学大学院建築学系博士後期課程修了
博士 (工学)



吉江 慶祐

楊 曉雨

研究分野 (構造耐震耐風安全性・構造解析)

制振構造・免震構造の暴風・地震に対する動的挙動とその予測法に関する研究, 制振構造・免震構造の構造安全性の検証方法・設計法に関する研究を行う。

研究内容

制振構造・免震構造の暴風・地震に対する動的なふるまいの分析を通じ, 風荷重や地震荷重の性質と構造物の応答の関係を調べ, 制振構造・免震構造の地震・風に対する応答予測方法や構造安全性の検証方法や設計法に関する研究を行っています。

研究紹介

- (1) 免震構造物の弾性限界を超える領域の風応答予測手法・設計法と, 地震・風などの不規則な振動を受ける免震部材の疲労特性を調査し, 免震部材の健全性評価方法を研究します。
- (2) 曲げ変形が卓越する塔状比の大きな構造物の制振構造の方法を, 制振時の骨組みの変形の追跡し変形制御のメカニズムを調べ, 効果検証を行います。
- (3) 数値流体力学 (CFD) の構造設計へ応用するために, 建物周りの風圧力・風力を調べ, CFD モデリングの基礎資料を構築します。
- (4) 構造部材・非構造部材の力学的挙動を実験的に調べ, 耐震性能の評価方法, 設計法を研究しています。

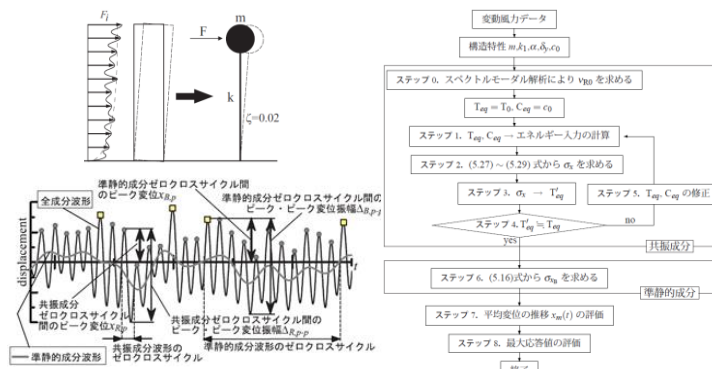


図1 弾塑性構造物の確率統計的風応答予測法

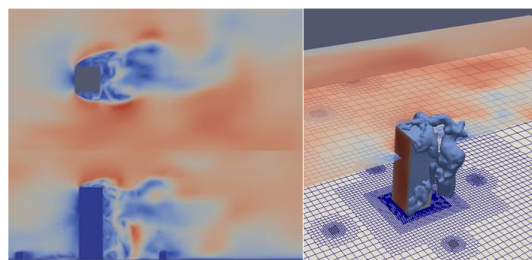


図2 建物周りの風の流れ

発表論文

- 1) 吉江 慶祐, 北村 春幸, 大熊 武司, 和田 章: エネルギーの釣合に基づく平均成分を有する広帯域性変動風力を受ける弾塑性構造物の応答予測手法, 日本建築学会構造系論文集, 第 608 号, pp.21-28, 2006.10
- 2) 吉江 慶祐, 大熊 武司, 北村 春幸, 和田 章: 広帯域性の変動風力を受ける弾塑性構造物の応答変位振幅の確率分布, 日本建築学会構造系論文集, 第 604 号, pp.37-46, 2006.6
- 3) 吉江 慶祐, 北村 春幸, 大熊 武司: 変動風力による弾塑性構造物への総エネルギー入力に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第 572 号, pp.31-38, 2003.10
- 4) Xiaoyu Yang, Shoichi Kishiki: Evaluation of ultimate strength of exposed column bases considering the bearing stress of foundation concrete. Engineering Structures, Vol.268, 114712, ELSEVIER, 2022.10

所属学会 吉江 慶祐 日本建築学会, 日本風工学会, 日本免震構造協会, 日本建築構造技術者協会

楊 曉雨 日本建築学会, 日本鋼構造協会

現研究室構成員: 教授 1 人 助教 1 人 学部生 7 人

サステナブル構造研究室

ふじた まさのり

藤田 正則 (教授) 教授室 : 8-54 内線 : 3430

なかむら まこと

中村 慎 (助教) 研究室 : 12-22 内線 : 3471

最終学歴 / 藤田 正則 (e-mail: fujitam1@kanagawa-u.ac.jp)

2000 年 3 月 東京工業大学大学院総合理工学研究科 環境物理工学専攻
博士課程修了 博士(工学)

最終学歴 / 中村 慎 (e-mail: makoto-nakamura@kanagawa-u.ac.jp)

2022 年 3 月 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻
博士(工学)



藤田 正則



中村 慎

研究分野 建築構造工学, 建築鋼構造, サステナブル構造, 耐震設計法

研究内容 制振部材の開発, 鋼と木質材料のハイブリッド構造の開発, 鋼構造の長寿命化技術の開発

研究題目 座屈拘束ブレース, 鋼木質複合構造, 鋼構造のリユース, 鋼材の耐久性, 機械式亀裂補修工法

研究紹介

鋼構造分野における環境負荷削減を目指して下記のテーマについて研究開発を行っています。

1) 座屈拘束ブレースに関する研究

座屈拘束ブレースは軸方向力を伝達する部材(芯材)が座屈しないように, その外周を拘束材で補剛したもの(写真 1)で, 耐震・制振要素として優れた構造性能を有しています。損傷制御設計により地震時のエネルギーを座屈拘束ブレースで吸収できるため, 建物を長寿命化することができます。

2) 鋼構造の部材リユースに関する研究

鋼構造の部材リユースは, 材料再生のための CO₂ 排出をとまなわないので, 環境負荷を小さくすることができます。その実用化を踏まえ, 設計・加工・施工・解体の領域において, 部材リユースのための鋼構造技術の提案・分析・評価を行っています(写真 2)。

3) 鋼木質複合構造に関する研究

鋼木質複合構造は, 木質材料をできるだけ多く使用して森林再生に貢献することを考え, 同時に構造物としての機能性と安全性を損なうことのないシステムを目指しています。鋼と木質材料をハイブリッドにすることで, 各々の材料の長所と短所を補完しています(写真 3)。

4) 鋼材の耐久性に関する研究

鋼材の耐食性を高めるため, 溶融亜鉛めっきが用いられますが, 長期に渡る自然環境下では, 腐食が進行する場合があります。ボルトのめっき層の劣化状況などを観察し, その耐久性の評価を行っています。

発表論文

1) 鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースの実験的研究 -充填材の影響を考慮した拘束材の局部破壊に関する検討-, 日本建築学会構造系論文集, 第 88 巻, 第 807 号, pp. 844-855, 2023 年 5 月, 2) Proposal and application of structural soundness monitoring system for the buckling-restrained brace using steel mortar planks, Steel Construction, Design and Research Vol.15, pp.1-9, 2023, 3) 鋼モルタル板を用いた座屈拘束ブレースにおける芯材と拘束材のクリアランス調整工法に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, 第 87 巻, 第 791 号, pp. 20-30, 2022 年 1 月, 4) Effects of the clearance between the core plate and restraining part on the structural performance of the buckling-restrained brace using steel mortar planks, Steel Construction, Design and Research Vol.15, pp.1-12, 2022, 5) 鋼構造環境配慮設計指針(案)-部材リユース-, 日本建築学会, 2015. 12

所属学会 日本建築学会, 日本鋼構造協会, 日本免震構造協会, 日本技術士会, IABSE, STESSA



写真 1 座屈拘束ブレース



写真 2 部材リユース

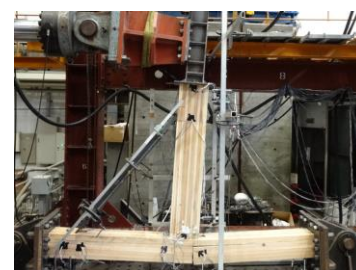


写真 3 鋼木質複合構造

現研究室構成員 : 教授 1 人, 助教 1 人, 学部生 13 人, 大学院生 5 人

災害リスクマネジメント研究室

しゅむた よしはる

朱牟田 善治 (教授) 教授室 : 8-55 内線 : 3431

おちあい つとむ

落合 努 (助教) 研究室 : 12-12 内線 : 3462

最終学歴 / 朱牟田 善治 (e-mail: shumuta@kanagawa-u.ac.jp)

1991 年 3 月 東京都立大学 博士 (工学)

最終学歴 / 落合 努 (e-mail: ochiai@kanagawa-u.ac.jp)

2022 年 3 月 神奈川大学 博士 (工学)



朱牟田 善治



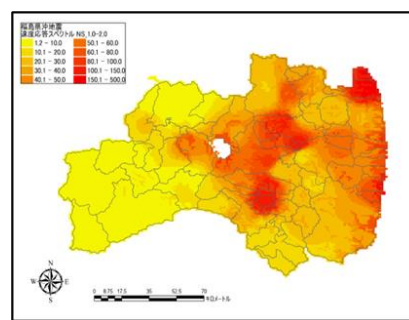
落合 努

研究内容 地域の災害リスクの軽減化**研究分野** 地震工学、構造工学、都市防災工学、地盤工学**研究題目** 地盤震動特性評価、建物の地震応答特性評価、災害危険度評価、センシング応用技術
サイスミック・マイクロゾーニング、自然災害リスクの評価と低減に関する研究**研究紹介** 地震・気象災害に関連して地盤構造と建物被害の関連性、地域の防災対策を調査研究し、災害予測
と防災対策をソフト面・ハード面から検討して効果的な災害リスク軽減化手法の研究

センシング技術の開発



被害調査 (液状化)



地震動強度の空間スペクトル特性

当研究室は、地震工学、地盤工学および都市防災工学をベースとして、地震によって引き起こされる地盤と建物被害発生メカニズム、気象・地震災害に関する被害予測と防災対策について研究を行っています。我が国は、これまで様々な自然災害に見舞われてきましたが、社会環境や災害環境も常に変化し続けています。例えば、2011年に発生した東日本大震災は、これまで経験したことのない未曾有の大規模地震でしたし、現在では南海トラフ地震や首都直下地震の発生可能性が高まっています。また、地球温暖化の影響により、近年、日本近海の海水温が上昇し、気象関連の災害が多発しています。2019年の台風15号や19号のような記録的な台風、爆弾低気圧、大雨や洪水など、これまであまり経験したことがない規模で、人々の暮らしを脅かすような激甚災害がたびたび発生するようになってきています。このような自然災害に対して、建築構造物をいかに守るか？、時代によってどんどん変化する人々のくらしや建築構造物をふまえ、災害に強いまちづくりとはなにか？、災害発生時にどう対処すれば被害を最小限に抑えられるのか？など、最新のセンシング技術なども応用し、ハード対策とソフト対策を組み合わせる都市の災害リスクをいかにマネジメントしていくかという視点で、研究を行っています。

発表論文 1) 朱牟田善治、永井 淳也、落合 努、荏本 孝久: 福島地域の地震動スペクトルの分布特性, 第12回インフラ・ライフライン減災対策シンポジウム, p. 140-145, 土木学会, 2022. 2) Yoshiharu Shumuta: Practical seismic upgrade strategy for substation equipment based on performance indices, Earthquake Engineering & Structural Dynamics, Special Issue: Earthquake Engineering for Electric Power Equipment and Lifeline Systems, Volume 36, Issue 2 pp209-226, 2007. 3) 落合 努、荏本 孝久、松田 磐余: 地形発達史が異なる地形区の常時微動H/Vスペクトル比と堆積層厚の関係 ハザードマップに常時微動を適用する一考察, 日本地震工学会論文集, 第21巻、第5号、2021. 4) T. Ochiai et al.: CREATION OF A HAZARD MAP CONSIDERING REGIONAL CHARACTERISTICS BY MICROTREMOR, Journal of Japan Association for Earthquake Engineering, Vol.20, No.8, 2020.

所属学会 日本建築学会、土木学会、電気学会、地震工学会、地盤工学会、地域安全学会、物理探査学会**現研究室構成員** : 教授 1 人 助教 1 人 大学院生 0 人 学部生 12 人

建築環境工学研究室

いわもと しずお

岩本 静男 (教授) 教授室: 12-34 内線: 3481

ふじもと りょう

藤本 遼 (助手) 研究室: 12-23 内線: 3477

最終学歴/岩本 静男(e-mail:iwamos01@kanagawa-u.ac.jp)

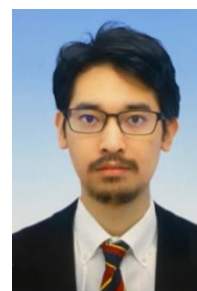
1989 年 3 月 明治大学大学院工学研究科博士後期課程建築学専攻修了
(工学博士)

最終学歴/藤本 遼(e-mail:ryo-fujimoto@kanagawa-u.ac.jp)

2022 年 3 月 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻
博士前期課程修了 修士(工学)



岩本 静男



藤本 遼

研究分野 建築環境工学

研究内容 1) 建築内外の温熱環境・空気環境に関する研究、2) 住宅設備・建築設備における省エネルギー・地球環境負荷削減に関する研究

研究題目 建築内外の気流分布を数値解析により予測する方法に関する研究、人体の温冷感を予測する方法に関する研究、建築設備における省エネルギー・地球環境負荷削減に関する研究、住宅の冷暖房・給湯設備に関する研究

研究紹介

1. 建築内外の温熱環境・空気環境に関する研究

簡単に紹介すると、「暑くもなく寒くもない」温熱環境と「汚れていない清浄な」空気環境を作り出すための研究を行っています。主として数値計算と実験室実験の2つを大きなテーマとしています。大学院生・卒研生ともども、数値計算もしくは実験による研究を自主的に進めています。実験が深夜におよんだり、計算結果が得られずに苦しみむこともあります。新たな発見を目指して積極的に取り組んでいます。実験室内には室内気候実験用チャンバーを設置して多種多様な空調方式・暖房方式による室内気候を再現できるようになっています。①実験室内に気温、湿度、気流などを計測するセンサーを多数設置し、空調方式・暖房方式の違いによる室内気温分布や気流の分布を計測し、温冷感の違いを評価する、②実験条件を与えて数値計算を行い、計算結果と実験結果の比較・検証を行う、③被験者やサーマルマネキンを実験室内に入れて暖房方式の違いによる温冷感や快適感の評価を行う、などの研究に活用しています。

2. 住宅設備・建築設備における省エネルギー・地球環境負荷削減に関する研究

住宅や事務所・ホテルなどの業務用建物に設置される設備では、冷暖房・空調・給湯のために大きなエネルギーを消費しています。省エネルギーのため、さらには地球環境負荷を削減するためにはどんな方策が考えられるかをテーマとし、ホテルや住宅の給湯設備、住宅暖房設備を中心に検討しています。また、実験室内には住宅用の給湯設備実験室を設置し、流量や湯温等を計測して消費エネルギーを求めたり、被験者実験による節湯効果を確かめる実験を行っています。

卒業研究テーマ 住宅用・業務用給湯システムの評価法に関する研究/室内空気分布計算における計算法・壁面境界条件に関する研究/各種暖房方式による室内温熱環境と消費エネルギーに関する研究/室内環境と着衣に関する研究/他

発表論文 1) S.Iwamoto, R.Ohnishi et al., The prediction method of supply water temperature for energy simulation of hot water supply systems Part 4, the Proceedings of CIB-W062 Symposium(2021). 2) Y. Misawa, S. Iwamoto, M. Iwata et al., Diagonally arranged louvers in integrated facade systems - effects on the interior lighting environment, Journal of Facade Design and Engineering, vol. 2(3-4), pp. 163-182 (2015). 3) 寺西翔平・岩本静男他、業務用ビルを対象とした結露リスク評価に関する研究: 気密性能および断熱性能の違いによる結露リスク評価、日本建築学会環境系論文集、第80巻、第718号、pp.1133-1142(2015).

所属学会 岩本 静男 日本建築学会、空気調和・衛生工学会、生理人類学会、太陽エネルギー学会、人間－生活環境系学会
藤本 遼 日本建築学会、空気調和・衛生工学会、人間－生活環境系学会

現研究室構成員: 教授 1 人 助手 1 人 大学院生 4 人 学部生 8 人

研究室設備: 給湯設備実験室、室内気候実験用チャンバー、サーマルマネキン

卒業学生数: 学部生 347 人 博士前期課程 28 人 (2022 年度末まで)

音・光環境研究室

やすだ ようすけ

安田 洋介 (教授) 教授室: 6-407 内線: 3373

もりなが まこと

森長 誠 (助教) 研究室: 6-406 内線: 3389

最終学歴/安田 洋介(e-mail: yyasuda@kanagawa-u.ac.jp)

2004 年 3 月 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻
博士課程修了 博士(環境学)

最終学歴/森長 誠(e-mail: m-morinaga@kanagawa-u.ac.jp)

2005 年 3 月 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了
博士(工学)



安田 洋介

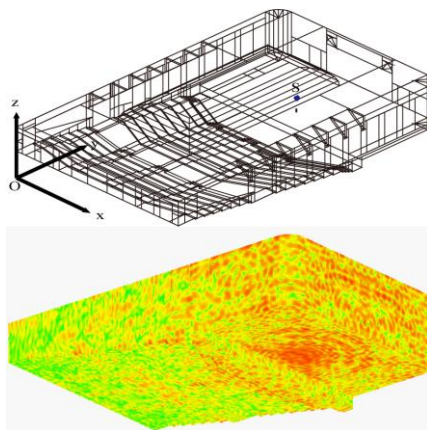


森長 誠

研究分野 建築環境、音環境、騒音制御

研究内容 建築内外の音響設計のための数値シミュレーション手法の開発、床衝撃音低減のための遮音機構の開発、音響部材の特性把握、建築内外での騒音伝搬予測・対策、音響心理実験、環境騒音に対する社会調査、音環境・視環境・複合環境の評価など

研究紹介 昨今、環境といえば CO₂ 削減や省エネといったいわゆる環境問題のことが頭に浮かびますが、建築に携わる上では、我々が日々の生活を営む器としての環境、またそれがもたらす QOL (Quality of Life) も同様に重視し、考えていく必要があります。当研究室ではこれらに密接に関わるものとして、建築環境工学の中でも音環境と光環境、特に前者を中心に研究を行っています。具体的には、より良い音環境の創出や騒音制御のための汎用的な数値シミュレーション手法の開発、それを応用した具体的な音場の予測、音場を形成する建築部材の音響特性の把握、建築内外での騒音伝搬予測・対策、音の心理実験などに関わる研究を行っています。近年は、集合住宅で問題になりやすい床衝撃音の低減のための遮音機構の開発や、屋外騒音の低減対策といった実務的な研究にも力を入れています。



発表論文 1) Y. Yasuda, *et al.*, A basic study on incidence directivity analysis using multipole and local expansions, *Acoust. Sci. & Tech.*, **43**, pp. 77-80, 2022. 2) Y. Yasuda, *et al.*, Effects of the convergence tolerance of iterative methods used in the boundary element method on the calculation results of sound fields in rooms, *Appl. Acoust.*, **157**, 106997, 2020. 3) Y. Iwane, *et al.*, Study on reduction of tunnel blasting infrasound using silencer with tube resonators, *Acoust. Sci. & Tech.*, **39**, 428-431, 2018. 4) M. Morinaga, *et al.*, Aircraft model identification using convolutional neural network trained by those noises in a wide area around an airfield, *Acoust. Sci. & Tech.*, **44** (2), pp. 131-136, 2023. 5) T. Gjestland, *et al.*, Effect of alternate definitions of “high” annoyance on exposure-response functions, *J. Acoust. Soc. Am.*, **151** (5), 2856-2862, 2022.

所属学会 日本建築学会、日本音響学会、日本騒音制御工学会

現研究室構成員: 教授 1 人 助教 1 人 学部生 9 人

建築環境・設備研究室

せりかわ まお

芹川 真緒（准教授） 教授室：8-56 内線：3432

よしうら あつまさ

吉浦 温雅（助教） 研究室：8-57 内線：3442

最終学歴／芹川 真緒(e-mail: serikawa@kanagawa-u.ac.jp)

2018 年 9 月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻

博士課程修了 博士（工学）

最終学歴／吉浦 温雅(e-mail: yoshiura@kanagawa-u.ac.jp)

2012 年 3 月 山口大学大学院理工学研究科情報・デザイン工学専攻

博士後期課程退学 博士（工学）



芹川 真緒



吉浦 温雅

研究分野 建築環境工学、建築設備、住宅温熱環境、省エネルギー

研究内容 シミュレーションプログラムを用いた室温とエネルギーの計算、住宅の温熱環境の評価、壁体や建物の熱特性の評価、民家の温熱環境改善に係る提案等。

研究紹介

近年、省エネルギーや省CO₂に対する意識が、世界的に高まっています。エネルギー消費の内、住宅・建築物での消費は小さくない割合を占め、建築分野での省エネルギーは喫緊の課題です。一方、日本の住宅は、断熱性能が低く、冬期の寒さのために、居住者の健康に望ましくない影響が生じていると指摘されています。これらの解決に向けて、高い環境性能を有する住宅・建築物の普及が望まれます。

環境性能に優れた住宅の普及のためには、一般の居住者にその良さを認識してもらう必要があります。しかしながら、省エネルギーや光熱費削減の訴求力には限界があります。そこで、近年注目されているSDGs（持続可能な開発目標）と関連付けた住宅性能の評価を実施しています。また、住宅の温熱環境を、居住者の関心の高いと考えられる健康性に関連付けた評価方法の提案を行っています。

一方、住む人の快適性や健康性の向上のためには、新築の建物の性能向上のみではなく、既築建築の使われ方も、重要な検討事項です。歴史的に価値のある民家が活用されていますので、そこで生活する方々に、冬を暖かく過ごしてもらう技術を提案しています。

感染症対策に関連し、大学の講義室での換気の状態を調査しています。CO₂濃度を測定して、屋外の新鮮な空気と室内の空気が入れ替わっているか判断します。講義室の大きさや在室者数によりますが、換気設備が設置されていない講義室でも、少し窓を開けるだけで、適切に空気が入れ替わる状況が確認されました。一方、冷房時に窓が閉め切られ換気が不十分である状態や、反対に冷房時に窓を全開にして冷房エネルギー増加に繋がっていると考えられる状態の発生も確認されました。今後、運用の改善に繋げていく必要があります。

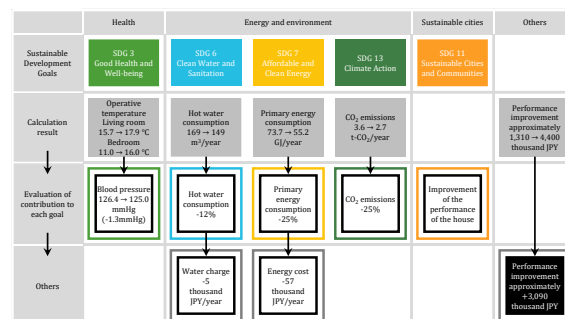
今後も引き続き、住宅・建築物の省エネルギーや環境性能向上に係る研究を進めていく予定です。

発表論文 1) Mao Serikawa, et al., “Quantitative evaluation of the contributions of improved housing performances toward delivering sustainable development goals by a building energy simulation tool”, Sustainable Cities and Society, Volume 79, April 2022. 2) 吉浦温雅, 奥山博康: 蒸発冷却利用の環境親和型クラディングのための基礎実験と予測計算, 日本ヒートアイランド学会論文集, 第13巻, pp.1-6, 2018.7

所属学会 日本建築学会、空気調和・衛生工学会

現研究室構成員: 准教授 1 人 助教 1 人 学部生 8 人

卒業学生数: 5 人



SDGs と関連付けた住宅性能の評価例



農家が活用された調査対象の福祉施設

建築史研究室

まつくま ひろし

松隈 洋 (教授) 教授室: 8-510 内線: 3433

かん みよんちえ

姜 明采 (助教) 研究室: 8-59 内線: 3458

最終学歴/松隈洋(e-mail: matukuma@kanagawa-u.ac.jp)

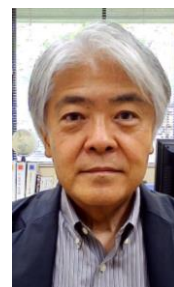
1980 年 3 月 京都大学工学部建築学科卒業

博士(工学・東京大学)

最終学歴/姜明采(e-mail: m-kang@kanagawa-u.ac.jp)

2019 年 3 月 神奈川大学工学研究科博士課程建築学専攻修了

博士(工学)



松隈 洋



姜 明采

研究分野 近代日本建築史・近代韓国建築史

研究内容 モダニズム建築、建築設計方法論、建築アーカイブ、建築・建築家の史的調査研究、別荘地研究、関東大震災後の復興建築

研究紹介

1: 近代建築史・建築設計方法論に関する研究

現代の身近な生活環境を形作ってきた工業化を前提とするモダニズム建築 (Modern Architecture) の歴史と先駆者となった建築家の思想と設計方法論についての研究を行っています。特に、ル・コルビュジエとアントニン・レーモンドに師事し、戦前戦後の日本のモダニズム建築を牽引した前川國男や、同じくル・コルビュジエに師事した坂倉準三などを中心に、村野藤吾、坂倉準三、丹下健三、大高正人、鬼頭梓らについて、残された設計原図や写真など、建築アーカイブ資料を元に考察を進めています。また、それらの蓄積を元に、保存や改修の方法についても研究しています。



前川國男 京都会館 1960 年

2: 近代日本建築史・近代韓国建築史研究

近代日本建築史研究として、建築の史的調査をはじめ、建築家の活動や住宅地・別荘地の開発などを取り上げ、歴史的観点から分析を行っています。また、戦前期韓国で活躍した日本人建築家の建築活動に注目し、近代韓国建築史に関する研究も積極的に行っています。関東大震災による横浜市の街並みの変化について、震災復興期建築の建設過程やデザインの特徴を中心に研究しています。

3: 横浜の近代建築史・都市史研究

横浜の旧居留地に注目し、擬洋風建築から始まる建築のデザインの変化、あるいは、運河を中心とした景観の様相といった、街並みの変化に関する研究を行っている。このほか、日本が中国や韓国に開いた租界地などの調査も実施し、東アジアにおける建築の近代化の比較研究なども行いたいと考えています。

発表論文

松隈 洋 1) 松隈洋『建築の前夜 前川國男論』みすず書房、2016 (日本建築学会論文賞受賞)、2) 松隈洋『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』青幻舎、2021、3) 松隈洋『ル・コルビュジエから遠く離れて』みすず書房、2016、4) 松隈洋『モダニズム建築紀行』全 2 巻、六耀、社 2016、5) 松隈洋『残すべき建築—モダニズム建築は何を求めたのか』誠文堂新光社、2013、6) 松隈洋『坂倉準三とはだれか』王国社、2011、7) 松隈洋編『前川國男 現代との対話』六耀社、2006、8) 松隈洋『近代建築を記憶する』建築資料研究社、2005、9) 松隈洋『ルイス・カーン—構築への意志』丸善、1997 ほか

姜 明采 1) 姜明采・内田青蔵・須崎文代『復興記念館の建設経緯について—横町公園内建造物に求められた『日本趣味』について—』『日本建築学会計画系論文集』第 84 巻 757 号、日本建築学会、pp.661-669、2019.3、2) 姜明采・内田青蔵・須崎文代『震災記念堂 (1930 年竣工) の建設経緯について』『日本建築学会計画系論文集』第 82 巻 734 号、日本建築学会、pp.1028-1037、2017.4、3) 姜明采『震災記念堂の設計競技応募図案に見る大正期建築デザインの傾向』『非文字資料研究』14 号、神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター、pp.275-319、2017.3

所属学会 松隈 洋 日本建築学会 / 姜 明采 日本建築学会、建築史学会、日本生活学会、日本生活文化史学会、大韓建築学会、韓国建築歴史学会

現研究室構成員: 教授 1 人 助教 1 人 大学院生 1 人 学部生 3 人

都市デザイン研究室

そがべ まさし

曾我部 昌史 (教授) 教授室: 8-61 内線: 3450

よしおか ひろゆき

吉岡 寛之 (助教) 教授室: 8-61 内線: 3450

最終学歴/曾我部 昌史 (e-mail: ponkan@mikan.co.jp)

1988 年 3 月 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了

最終学歴/吉岡 寛之 (e-mail: ft101937mn@kanagawa-u.ac.jp)

2001 年 3 月 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修了 (修士(工学))



曾我部 昌史



吉岡 寛之

研究分野 建築設計

研究内容

都市やまちへの新しい視点での考察により、建築・都市デザインの可能性を実践的に追求する

研究題目

人の活動と地域との関係でみる建築・都市デザイン、まちづくり。

研究紹介

新しい可能性を一緒に探究するための場

都市の現実を相手に、われわれはどのような関わりをもつことが可能なのか。建築デザインやまちづくりの実践を通してその可能性を追求することが、この研究室の目標です。そのためには、具体的にコミュニケーションの場を構想するようなことから、新しいミーティング環境を創出することなど、さまざまなアプローチが考えられるでしょう。多様な探求を目指したいと考えていますが、その前提として、可能な限り実践的であること、そして、常識にとらわれない独自の視点を獲得することを基本的なスタンスにしたいと思っています。学生のみなさんには、このような探求に集中力をもって積極的に関わることを期待します。つまり、この研究室は、何らかの知見を受け取るだけの場ではなくて、新しい可能性を一緒に探求するための場である、ということです。

現在は、徳島県美波町での古民家再生や門前町の景観づくり、愛媛県今治市大三島での地域づくりに関連した建築プロジェクトを中心に、アートプロジェクトなどにも参加をしています。



来島海峡SA 店舗ゾーン/愛媛/2019



赤松防災拠点家具デザイン/徳島/2017



古民家永晴邸改修プロジェクト/徳島/2018

発表論文 1)著書:「アジアのまち再生-社会遺産を力に」(分担執筆)、鹿島出版会、2017。2)著書:「通りからはじまる“まち”のデザイン」(分担執筆) 建築資料研究社、2019。3)作品:「来島海峡サービスエリア店舗ゾーン」、愛媛県今治市、2019。4)作品:「美波町赤松防災拠点」、徳島県美波町、2017。5) 論文: Hiroyuki Yoshioka, Masashi Sogabe, Miki Maruyama, and Akira Hasegawa / Study of town making using features of the current situation - Part 1

所属学会 曾我部昌史 日本建築学会、日本建築家協会、日本生活文化史学会、日本文化デザインフォーラム
吉岡 寛之 日本建築学会

現研究室構成員: 教授 1 人 助教 1 人 大学院生 9 人 学部生 9 人

建築計画研究室

なかい くにお

中井 邦夫 (教授) 教授室: 8-67A 内線: 3452

すずき なるや

鈴木 成也 (助手) 研究室: 8-67 内線: 3452

最終学歴/中井 邦夫(e-mail: knakai01@kanagawa-u.ac.jp)

1999 年 3 月 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻博士課程修了
博士(工学)

最終学歴/鈴木 成也(e-mail: ft102154wu@kanagawa-u.ac.jp)

2013 年 3 月 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程修了
修士(工学)



中井 邦夫



鈴木 成也

研究分野 建築意匠、建築設計

研究内容 建築および都市の空間構成に関する研究

研究題目 ・都市建築タイポロジーに関する研究 ・戦後復興期における防火帯建築の構成に関する研究 ・空間配列による都市港湾地域の再構築に関する研究 ・住宅作品における空間構成に関する研究

研究紹介

人間は、家や病院で生まれ、学校や会社へ通い、住宅で家族と暮らし、そしてお墓に入るまで、一生を通じていつも建築とともに生活しています。あらゆる人間活動は建築や都市がつくり出す空間なしには成立しません。では、これらの多様な活動を支える空間は、どのような豊かさをもつべきでしょうか。人々の生活が多様化し、持続的な都市環境が求められるなか、私たちはどのような観点から空間をデザインしていくべきでしょうか。本研究室では、こうした問題について、実践的な活動や事例調査に基づく体系的な分析と理解を通して考察を深めます。そのことを通して、建築や都市の空間をデザインするうえでの独自の視点を発見し、研究論文や計画案としてまとめます。



台東区立浅草文化観光センター設計コンペティション佳作入賞案 (2008)



富久町の家 (リフォーム, 2013)

発表論文 1) 藤岡泰寛, 中井邦夫他, 横浜防火帯建築を読み解く—現代に語りかける未完の都市建築, 花伝社, 2020.3. 2) 鈴木成也, 中井邦夫, 都市中心市街地における建物の外形タイプとその立地および建設年代—横浜市伊勢佐木町一帯を対象にして-, 日本建築学会計画系論文集, No.754, pp.2313-2323, 2018.12. 3) 中井邦夫, 横浜の防火帯建築における空所の構成, 日本建築学会計画系論文集, No.708, pp.323-330, 2015.2. 4) 中井研究室, 富久町の家 (スノコ・ハウス), 第 30 回住まいのリフォームコンクール入賞, 公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター, 2013.10. 5) 坂本一成, 中井邦夫他, 建築構成学—建築デザインの方法, 実教出版, pp.84-93, 103-112, 2012.3. 6) 中井研究室+NODESIGN, 台東区立浅草文化観光センター設計コンペティション佳作入賞案, 2008.12.

所属学会 中井 邦夫 日本建築学会, 都市住宅学会

鈴木 成也 日本建築学会

現研究室構成員: 教授 1 人 助手 1 人 大学院生 7 人 学部生 8 人

卒業学生数: 学部生 104 人 博士前期課程 29 人

建築デザイン研究室

ろっかく みる

六角 美瑠 (教授) 教授室: 8-68A 内線: 3453

最終学歴/六角 美瑠 (e-mail: rokkaku@kanagawa-u.ac.jp)

2011 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了博士 (工学)



六角 美瑠

研究分野 建築設計・建築意匠

研究内容 建築・環境・空間におけるデザイン・設計手法の研究

研究題目 空間フレーミング研究 (視環境・窓と空間に関する研究)、伝家研究 (家の歴史や生活などの継承の研究)、素材研究、建築物の改修・利活用に関する研究

研究紹介

私たちをとりまく環境と対話し、設計によって魅力的な空間として視覚的世界を構築することが建築デザインの面白さであり、役割の一つだと思います。「空間フレーミング研究」においては、建築を取り巻く外部環境を建築の「窓」を通じていかにデザイン操作できるかを研究しています。このように本研究室では、建築における構成要素と空間の関係を読み解き、距離感やスケール、人の感性に響くデザイン手法の設計への応用を考察し研究しています。また、建築の造作についても学び、素材や仕上げを探究したいと試みています。その先には、実際の住宅や地域の施設などを対象に、人やまちと関わる場としてプログラムと共に設計表現をしていくことを目指したいと考えています。



ORU 折織居 外観



BentBox 浅間観荘 外観



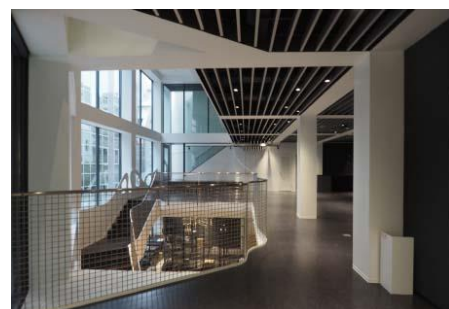
SeaForce bldg. 外観



ORU 折織居 内観



BentBox 浅間観荘 内観



SeaForce bldg. 内観

発表論文 1) 論文:「地域生態圏における空間フレーミング研究」特別教育・研究報告集 芝浦工業大学 2019 年 9 月 2) 論文:「全球マド全史 1・2」窓学アーカイブ 2014-2016 YKKap 窓研究所 2018 年 3 月 3) 窓に秘められている力「静と動」「名作住宅から学ぶ窓周りディテール図集」オーム社 2016 年 4 月 4) 作品:「光恩寺弁天堂」『SD 2019』鹿島出版会 2019 年 12 月

所属学会 日本建築家協会、臨床美術学会

現研究室構成員: 教授 1 人 大学院生 9 人 学部生 6 人

建築史研究室

うちだ せいぞう

内田 青蔵 (特任教授) 教授室: 8-63 内線: 3457

最終学歴/内田 青蔵(e-mail:suchida@kanagawa-u.ac.jp)

1983 年 3 月 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻
博士課程満期退学(工学博士)



内田 青蔵

研究分野 日本建築史・近代建築史・日本住宅史

研究内容 建築の史的調査研究、住宅の史的調査研究、建築家に関する史的調査研究、建築保存再生計画、住宅地の史的調査研究、技術革新に関する史的研究、別荘地研究、日本及び海外（東アジア）の居留地研究、海外移民研究

研究紹介

1: 近代日本住宅史・近代日本建築史研究

近代日本建築史研究として、住宅の変遷をはじめ、建築家の活動や住宅地・別荘地の開発などを取り挙げ、歴史的観点から分析を行っています。

2: 横浜の近代建築史・都市史研究

大学の立地する横浜の建築史ならびに面的変化を扱う都市史研究として、旧居留地に注目し、擬洋風建築から始まる建築のデザインの变化、あるいは、インフラ整備から運河を中心とした景観の様相といった、街並みの変化に関する研究も積極的に行っています。近年は、横浜居留地と日本が開いた租界地などの調査も実施しながら、今後は東アジアにおける建築の近代化の比較研究なども行いたいと考えています。

3: 保存・再生に関する研究

欧米はもちろんのこと、わが国でも、近年、歴史的建造物の保存・再生の事例が増えています。こうした海外の事例や日本事例を取集し、その方法の整理分類といった研究も進めたいと考えています。



移築保存に携わった旧本多邸 (岡崎市)



「あめりか屋」が手がけた、
日本初の女優・川上貞奴の自邸 (名古屋市)

発表論文

- 1) 茶谷亜矢・内田青蔵・姜明采「建築家・渡部栄治の経歴と建築作品について」『日本建築学会計画系論文集』第 88 巻第 806 号、pp.1432-1437、2023.4、2) 内田青蔵「明治 43-44 (1910-1911) 年の『東京朝日新聞』連載記事「時代の家屋」に見られる住宅間取り図について-わが国戦前期の中流住宅勃興期における住宅に関する一考察-」『常民文化研究』第 1 巻、pp.3-30、2023.3、3) 野々村明佳里、内田青蔵、姜明采、「同潤会の分譲住宅事業に関する研究 (その 2) -入居者選定のプロセスと広報活動について-」『日本建築学会計画系論文集』第 88 巻第 804 号、pp.657-665、2023.2、4) 内田青蔵ほか『和室礼讃——「ふるまい」の空間学』晶文社、2022、5) 下山美月・内田青蔵「建築家・竹腰健造の建築活動について-戦後の代表作品である聖心女子大学キャンパス計画を中心として-」『宗教と文化』第 38 号、聖心女子大学、pp.7-53、2022.3、6) 洲上貴由樹・内田青蔵「座敷の配置と用途にみる 2 階建て住宅の間取りの機能分化-戦前期刊行住宅書にみる 2 階建て独立住宅の理念形成に関する研究」『日本建築学会計画系論文集』第 86 巻第 790 号、日本建築学会、pp.2720-2730、2021.12、7) 「日本近代における『民家』へのまなざしと民芸運動について」『歴史と民俗: 神奈川大学日本常民文化研究所論集』第 37 号、神奈川大学日本常民文化研究所、pp.463-505、2021.3、8) 内田青蔵他『和室学: 世界で日本にしかない空間』平凡社、2020.10

所属学会 日本建築学会、建築史学会、日本生活学会、日本生活文化史学会、家具道具室内史学会、日本家政学会、日本産業技術史学会

現研究室構成員: 特任教授 1 人 大学院生 3 人 学部生 2 人

住宅デザイン研究室

すずき のぶひろ

鈴木 信弘 (教授) 教授室 : 9-63 内線 : 4066

きくい ひさひろ

菊井 悠央 (助手) 研究室 : 9-63 内線 : 4066

最終学歴 / 鈴木 信弘 (e-mail: ft102141mt@kanagawa-u.ac.jp)

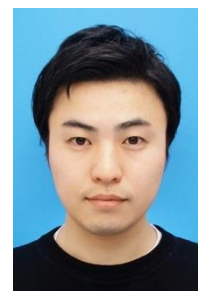
1988 年 3 月 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
修士 (工学)

最終学歴 / 菊井 悠央 (e-mail: ft102216xn@kanagawa-u.ac.jp)

2016 年 3 月 神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
修士 (工学)



鈴木 信弘



菊井 悠央

研究分野 住宅設計・住宅デザイン

研究内容

住宅の設計を通して、地域・環境・暮らしの可能性と魅力を考える。

研究題目

敷地の魅力を活かし、居場所を生み出し、暮らしやすい住宅の設計。

研究紹介

住宅とは人々の暮らしを支える器です。私たちの生活の基本は暮らしと器が良い関係で寄り添っているかどうかに関係しています。暮らしは多種多様な要素から構成されています。家族が安心・安全して住むことはもちろん、暮らしの諸行事が滞りなく行えるか、気持ちが穏やかに過ごせる場所であるか、精神的に満たされる空間であるかなど、「住宅」には人間が人間らしく生きていくための「巢」としてのすべてが含まれます。このように住宅の設計は、1つ屋根の下に多様な暮らしの要素である生活行為を組み込むことであり、居心地の良い空間として整えていく行為です。さらに住まいは環境とどのようにつながるべきか、地域循環共生圏にどう取り組んでいくかなど、実際の住宅設計と住宅見学、産地の視察、施工現場を通して新たな検討テーマを各自が見出し、研究や創作にまとめていきます。



図 1: 港北 E 邸 (横浜市) 在宅ワークの夫婦と 2 匹の大型犬が住むための住宅。リビングスペースの音環境に配慮して天井の形状と吸音の方法をデザインしている。



図 2: 古民家のリノベ。架構の雰囲気を残したデザインのまま、耐震改修、断熱改修、間取りの変更を行い BELS の 5 つ星を獲得。



図 3: 建築家の設計した住宅を訪ねて、設計者に直接インタビューを行うゼミの風景。事前に模型や図面を検討して質問を考えて臨む。

発表論文 1) 著書: 「住宅の設計」(編著・執筆) 市ヶ谷出版社, 2023。2) 著書: 「最高の二世帯住宅をデザインする方法」(分担執筆) 株) エクスナレッジ, 2021。3) 著書: かたづけの解剖図鑑」(株) エクスナレッジ, 2013。4) 作品: 「青山学院附属英和学院学生チュードセンターオリーブ」, 横浜市, 2022。5) 作品: 「戸塚 H 邸」, 横浜市, 2019, 感境建築コンペ優秀賞, 神奈川建築士会。6) 作品: 「明治期 140 年民家の再生 U 邸」, 東京都, 2021, 第 6 回日本エコハウス大賞リノベ部門最優秀賞, エクスナレッジ社 7) 作品: 鈴木信弘 + 神奈川大学建築学科デザインコース教員「神奈川大学 29 号館」, 横浜市, 2015, 神奈川建築コンクール環境賞, 神奈川県。8) 作品「黒の巣箱」, 横浜市港北区, 2005, 神奈川建築コンクール入賞, 神奈川県。9) 作品: 「篠原東 M 邸」, 横浜市港北区, 2023

所属学会 鈴木信弘 日本建築学会、日本建築家協会、新木造住宅技術研究協議会、神奈川建築士会

現研究室構成員: 教授 1 人 助手 1 人 学部生 3 人

生活デザイン史研究室

すざき ふみよ

須崎 文代 (准教授) 教授室 : 9-64 内線 : 4068

かねまき たかひこ

印牧 岳彦 (助教) 研究室 : 9-64 内線 : 4067

最終学歴 / 須崎 文代 (e-mail: fsuzaki@kanagawa-u.ac.jp)

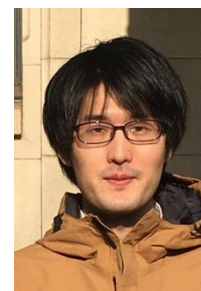
2014 年 3 月 神奈川大学大学院工学研究科建築専攻博士後期課程修了
博士 (工学)

最終学歴 / 印牧 岳彦 (e-mail: kanemaki@kanagawa-u.ac.jp)

2021 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了
博士 (工学)



須崎 文代



印牧 岳彦

研究分野 建築史、住宅史、生活史

研究内容 住宅および生活デザインに関する建築史研究

研究題目 I : 身体、II : 技術、III : 芸術、IV : 共同性の 4 点に着目した生活デザインの建築史的研究

研究紹介 人間生活を成立させる建築と生活デザインの歴史について、主に住宅史、建築史、生活史の観点から研究を行っています。また地球環境にも目を向け、人間生活と自然環境との関係性の再構築を目指した調査研究を、実践的活動と合わせて追求しています。具体的な研究課題は、たとえば近代衛生論の展開、住宅の水まわり (台所・風呂・トイレ) の変容、生活共同体と相互扶助、ブラジル日本人移民住宅、旧渡辺甚吉邸など歴史的建造物の保存再生、環境やエコロジーといった視点からの近代建築史・建築理論の再検討などがあります。

(1) 近代衛生、水まわり空間の史的研究——近代以降に展開した衛生論とその実践、および住宅の台所・風呂・トイレ等の水まわり空間の歴史に関する研究。

(2) セツルメントハウスの史的研究——19 世紀後期以降の英米で相互扶助や共同生活を目的に実践されたセツルメントハウスの、国内外での展開に関する研究。

(3) 「小さな地球プロジェクト・里山スクールオブデザイン SSD」でのサーベイ——[人間-建築-自然環境]の事物連関に関するフィールドサーベイと新たなデザインの提案。

(4) 近代の建築言説・表象における「環境」概念についての研究——20 世紀初頭を中心とした近代建築の議論における、人間を取り巻く「環境」を制御するという発想の形成・展開過程についての研究。

発表論文

- 1) 須崎文代: 居住生活の境域と縁—ドメスティック・ディスタンス II, 現代思想, Vol. 50 No.2, pp. 123-134, 2022.2
- 2) 須崎文代: 生活の《解体》考—暮らしと住まいを見つめる学問の軌跡, 歴史と民俗, Vol.37, pp. 301-325, 2021.3
- 3) 内田青蔵, 須崎文代, 中谷礼仁, 三浦清史: 旧渡辺甚吉邸の建築的特徴に関する歴史的調査と評価, VSPORT 研究助成共同研究成果報告書, 2021.9
- 4) 印牧岳彦: コーウィン・ウィルソンによる「移動住宅」の提案とその思想的背景, 日本建築学会計画系論文集, Vol.85, No.774, pp. 1801-1808, 2020.8
- 5) 印牧岳彦: アドルフ・ロースの論考「劇場」の執筆背景および歴史的位置付けについての研究, 日本建築学会計画系論文集, Vol.85, No.769, pp. 743-751, 2020.3

所属学会 須崎 文代 日本建築学会, 日本生活学会, 日本生活文化史学会、建築史学会、家具道具室内史学会、日本産業技術史学会、日本家政学会 / 印牧 岳彦 日本建築学会, 建築史学会, 表象文化論学会

現研究室構成員: 准教授 1 人 助教 1 人 学部生 5 人



図 1: フランクフルト・キッチン (フランクフルト・アム・マイン、エルンスト・マイ・ハウス): 近代における台所空間の効率化の例



図 2: 再生民家「ゆうぎつか」(鴨川市釜沼、小さな地球プロジェクト)のコンポストトイレ: 環境やエコロジーに配慮した循環型トイレのサーベイとデザインスタディ

居住環境デザイン研究室

たちばな みお

立花 美緒（准教授）教授室：9-65 内線：4070

最終学歴／立花 美緒(e-mail:tachibana@kanagawa-u.ac.jp)

2006 年 3 月東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了



立花 美緒

研究分野 建築設計、建築計画、建築意匠

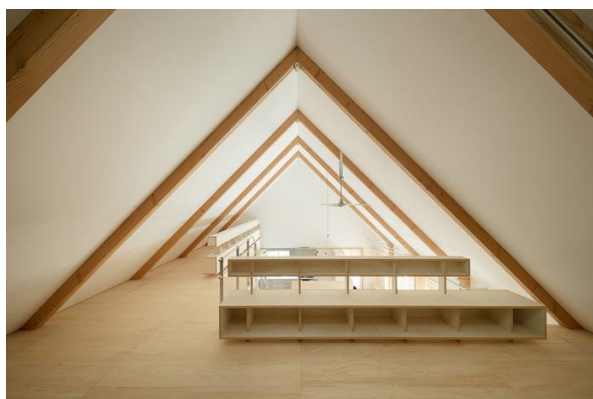
研究内容 居住環境、住宅、集合住宅の建築設計、学校建築計画、図書館建築計画

研究題目 地域社会に貢献する住宅及び集合住宅の設計手法、コロナ禍における執務空間の家具配置計画、小中高等学校における内部広場の空間構成と利活用、課題解決型図書館の設計手法 他

研究紹介

地域社会とともに暮らす居住環境をデザインする

コロナ禍で、リモートワークやワーケーションといったように、住まいと仕事の関係や、暮らしの価値観は大きく変容しています。このような社会的背景と居住環境の関係を、現在と過去から学び、未来の豊かな暮らしを支える住宅を、実践的に提案する研究室です。近現代の住宅と集合住宅、国内外の集落、生産と消費を再縫合する暮らし等について、文献とフィールドワークでリサーチし、地域社会に貢献する建築とインテリアをデザインします。居住環境の在り方について、学生も教員も、自ら学び、共に学ぶ姿勢を大切にしています。現在は、エコヴィレッジ、執務空間、国内及びヨーロッパの小中高等学校及び図書館の空間構成と家具に関するリサーチ、住宅と集合住宅の設計を行っています。



蝶番の家 写真：太田拓実



長押の室

発表論文

- 1)立花美緒; 蝶番の家, 新建築住宅特集 2018 年 10 月号, pp. 146-151, 2018.
- 2)M. Tachibana et al.; "HINGE HOUSE": Space embracing plural people, activities, and objects by devising a timber frame joint, Japan Architectural Review, vol.4, no.1, pp.22-27, 2021.
- 3)立花美緒他; デンマークのギムナジウムにおけるコモンコアの空間構成と使われ方, 日本建築学会計画系論文集, Vol.85, No.775, pp.1841-1851, 2020.
- 4)立花美緒他; デンマークの学校における英語の授業活動とセッティングのシステム, 日本建築学会計画系論文集, Vol.87, No.793, pp.510-520, 2022.
- 5)山崎鯛介, 小林正泰, 立花美緒; 日本の美しい小学校, エクスナレッジ, 2016.

所属学会 立花 美緒 日本建築学会

現研究室構成員：准教授 1 人 学部生 4 人

都市計画研究室

やまが きょうこ

山家 京子 (教授) 教授室: 8-66A 内線: 3451

かしはら さおり

柏原 沙織 (助教) 研究室: 9-61 内線: 4061

最終学歴/山家 京子(e-mail: yamaga@kanagawa-u.ac.jp)

1992 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了
博士(工学)

最終学歴/柏原 沙織 (e-mail: kashihara@kanagawa-u.ac.jp)

2018 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了
博士(工学)

山家 京子



柏原 沙織

研究分野 山家 京子 建築・都市計画 柏原 沙織 歴史的都市景観・都市デザイン**研究内容** 都市空間に関する研究、まちづくりに関する実践的取組み**研究題目** 都市居住とコミュニティに関する研究と設計的検討、地域資源を活かしたまちづくりに関する調査研究及び実践的取組み、郊外住宅地の持続可能性に関する調査研究、公共空間の利活用に関する研究と設計的検討、関係人口の創出を促進する空間に関する調査研究、商業地における創造型景観形成に関する調査研究

研究紹介

都市空間における場の生成をテーマとし、フィールドワークに基づく調査研究を実施するとともに、持続可能なまちづくりに実践的に取り組んでいます。

本研究室では 2016 年度より、横浜市との協定に基づき横浜市十日市場駅周辺地域におけるまちづくりに取り組んでいます。たからもの探しワークショップ+マップづくり、住民のヒアリングに基づく思い出・生活カード作成などを実施し、それらを報告書としてまとめました。「たからもの探しワークショップ」(図 1) では、学生と地域住民が地域の魅力を再発見する場として、まち歩き、個人たからものマップづくりなどを行い、そこで抽出された地域たからものを建築学科生の観点から「十日市場たからものマップ」としてまとめました。また、これらの取組みから、愛着のある場所に関する考察を行い、住宅地計画を検証するとともに、今後の持続可能なまちのあり方を検討します。

2022 年度からは、鎌倉市との包括協定に基づき、小町通りにおける景観形成支援に取り組んでいます。古都でありながら分かりやすい景観形成の規範がない中で、現地調査から景観特徴を抽出するほか、学生からの設計提案を元に、商店会会員や市民、学生がワークショップを通して小町通りらしいシーンについて議論し、キーワードを抽出しました(図 2)。今後は引き続き、鎌倉らしい景観形成に向けた合意形成に資する手法やツールを検討していきます。

卒業研究テーマ

郊外住宅地における生活圏および愛着のある場所・居場所に関する研究/民間空地活用事例に関する調査研究/コロナ禍を契機とした地域交流・施設に関する調査研究/海外の都市再生に関する事例研究 他

発表論文 1) 自治体による二地域居住に関わる取り組み—全国二地域居住等促進協議会の加盟自治体を対象としたアンケート調査から—, 共, 日本建築学会技術報告集29(71), pp.418-423, 2023年2月. 2) 民有空地の活用検討プロセスに関する実践的研究—川崎市八丁畷駅前空地における実験的取組みを事例として—, 共, 日本建築学会技術報告集26(64), pp.1173-1178, 2020年10月. 3) A Research on Community Involvement Complementing Residents' Association -A Case of Voluntary Community Activities in Yokohama Residential Suburb, 共, Asia-Pacific Planning Society 2019 国際会議(Seoul), 2019年8月. 4) 横浜市六角橋商店街仲見世通りの成立と空間変容, 共, 歴史と民俗, 神奈川大学日本常民文化研究所論集32, pp.311-329, 2016年2月.

所属学会 山家 京子 日本建築学会、日本都市計画学会

柏原 沙織 日本建築学会、日本都市計画学会、都市住宅学会、日本環境心理学会



図 1: 「たからもの探しワークショップ」の様子



図 2: 鎌倉小町通りでのフィールドワークの様子

現研究室構成員: 教授 1 人 助教 1 人 大学院生 9 人 学部生 8 人

建築保存活用研究室

のむら かずのり

野村 和宜 (教授) 研究室：9-62 内線：4064

しおわき しょう

塩脇 祥 (助手) 研究室：9-61 内線：4062

最終学歴／野村 和宜(e-mail:k-nomura@kanagawa-u.ac.jp)

1988 年 4 月～ 三菱地所設計 (現在：エグゼクティブフェロー)

2019 年 3 月 東京工業大学大学院 博士課程修了

最終学歴／塩脇祥(e-mail:shiowaki@kanagawa-u.ac.jp)

2015 年 3 月 神奈川大学工学研究科建築学専攻博士前期課程修了
修士(工学)



野村 和宜



塩脇 祥

研究分野 建築保存活用、リノベーション、継承デザイン、都市再開発、歴史的景観、まちづくり

研究内容 歴史的建造物などの建築ストックを使い続けるためには、歴史をはじめとする多様な価値を顕在化させた上で、安全などの課題への対応、まちづくりへの対応、諸制度の活用などを検討することで、的確な方法によって価値継承と時代の要求に応えた機能更新を両立させる必要があります。そのための検討プロセスや技術的手法をはじめ、アーカイブスの構築による歴史的価値の発信方法などについて研究しています。

研究紹介

(1) 保存と活用・開発の検討プロセス

歴史的価値の継承、機能更新、まちづくりなどの与件を整理し最適案を生み出す検討プロセスの研究。

(2) 煉瓦造建造物の耐震・防火対策

明治期に建設された煉瓦造建造物の耐震・防火対策の手法における実践的研究。



図1 日本工業倶楽部会館の保存再生

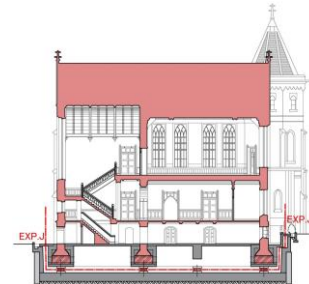


図2 煉瓦造の耐震・防火改修方法

(3) 歴史的な都市・集落のアーカイブス構築

都市や集落の歴史的価値を後世に残し発信するためのアーカイブスの構築と活用に関する研究。

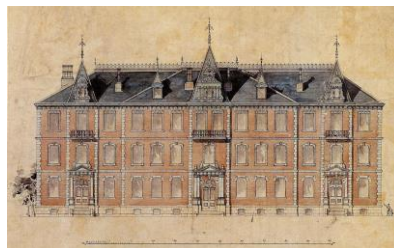


図3 街全体の建築アーカイブス

(4) 実証実験型のまちづくり

地域ごとの特性や課題を発見し、持続的なまちづくりを目指す実験的な手法に関する研究。



図4 空家の実験的活用(芸術展示)

発表論文

- 1) 野村和宜, 山崎鯛介：日本工業倶楽部会館の活用・継承検討プロセスについて -民間再開発において歴史的建造物を活用・継承する手法の検討プロセスに関する研究 (その1), 日本建築学会技術報告集, Vol. 23, No. 55, pp. 1043-1048, 2017. 10
- 2) 野村和宜, 山崎鯛介：歌舞伎座の活用継承検討プロセスについて -民間再開発において歴史的建造物を活用継承する手法の検討プロセスに関する研究 (その2), 日本建築学会技術報告集, Vol. 25, No. 59, pp. 477-482, 2019. 2
- 3) 野村和宜, 山崎鯛介：東京中央郵便局の活用継承検討プロセスについて -民間再開発において歴史的建造物を活用継承する手法の検討プロセスに関する研究 (その3), 日本建築学会技術報告集, Vol. 25, No. 59, pp. 491-496, 2019. 2

所属学会等 日本建築学会, 日本イコモス国内委員会

現研究室構成員：教授 1 人, 助手 1 人, 学部生 2 人

不動産デザイン研究室

たかはし じゅたろう

高橋 寿太郎 (教授) 教授室: 9-62 内線: 4063

最終学歴/高橋 寿太郎(e-mail: jutaro-takahashi@kanagawa-u.ac.jp)
2000 年 3 月 京都工芸繊維大学 工芸科学研究科 博士前期課程修了
修士 (経営学)



高橋 寿太郎

研究分野 建築企画、不動産マーケティング・ファイナンス、地方創生

研究内容 建築と不動産のあいだの領域にある諸事象についての研究

研究題目 建築企画のための不動産マーケティング調査に関する研究、
についての研究、建築プロジェクトの収益性とデザインに関する研究、
の改善の研究

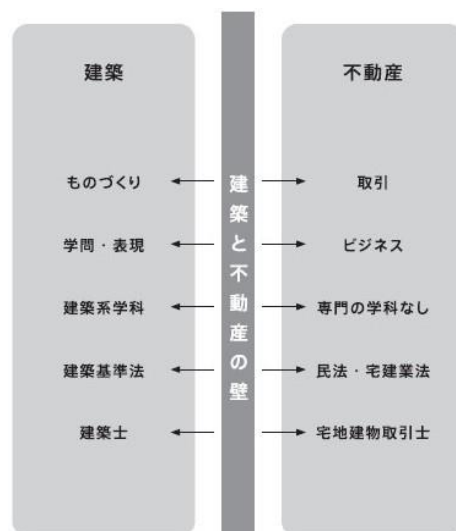
研究紹介

不動産デザイン研究室は「建築学と不動産学の融合」を理念とし、
建築やリノベーションプロジェクトの成立条件 (不動産・マーケティング・
ファイナンス) を考える分野である「建築企画」を積極的に行う
日本で初めての研究室です。

少子高齢化が加速し、空き家が急増するなど、ストック社会に向かう
産業構造が大きく変化する時代には、この建築企画と建築デザイン
やまちづくりを同時に考える人材が求められます。学生のみなさんには、
こうした幅広い分野に興味を持ちつつ、さらにチームビルディング
やプロデュースといった新しい領域の開拓を期待します。

研究室が特に重視するのは、社会課題を解決させるための「広義の
デザイン思考」です。社会やユーザーの課題解決に向けて、モノだけ
でなく、コトを構想・設計することを目指します。

リノベーションの企画と実現可能性
地方における空き家バンクシステム



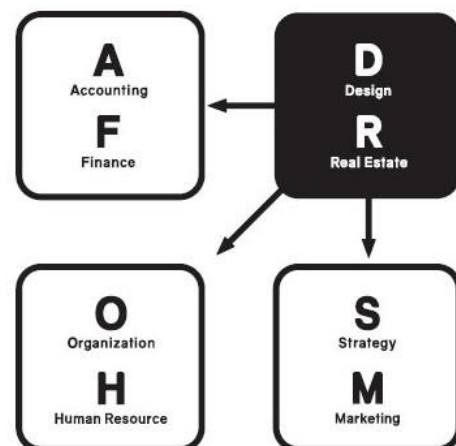
建築と不動産のあいだの壁と融合

A: 会計戦略・お金の仕組み

D: 設計・建築計画

F: ファイナンス・キャッシュフロー

R: 不動産コンサルティング



O: 組織構造・企業文化

S: 経営戦略・市場分析

H: 人材マネジメント・インセンティブ

M: マーケティング・販路計画

建築不動産とマネジメント領域の関係性



建築企画事例『イマケンビル一棟リノベーション』2018

発表論文 1) 著書『建築と不動産のあいだ』学芸出版社 2015 2) 著書『建築
と経営のあいだ』学芸出版社 2020 3) 著書 (監修)『建築学科のための不動産
学基礎』学芸出版社 2021 4) 著書 (共著)『建築系のためのまちづくり入門』
学芸出版社 2021

現研究室構成員: 教授 1 人

まちづくり研究室

うえの まさや

上野 正也 (准教授) 教授室：9-63 内線：4065

最終学歴／上野 正也 (e-mail: ueno@kanagawa-u.ac.jp)

2015 年 3 月 横浜市立大学都市社会文化研究科博士後期課程修了
博士(学術)



上野 正也

研究分野 まちづくり、創造都市、都市計画

研究内容 創造性を活かしたまちづくり、公共空間の利活用、エリアマネジメント

研究題目 創造性を活かした都市政策・都市づくりに関する研究、創造的産業と都市に関する研究、地域資源を活かしたまちづくりの検討及び実践、郊外住宅地の持続可能性に関する調査研究、公共空間の利活用に関する研究と設計的検討

研究紹介

複雑化する今日の都市・地域における課題に対して、様々なアプローチを検討し、その解決方法を探る必要があります。ここでは、ハード(建物)だけでなく、その場所での活動を考えることや管理・運営(マネジメント)といったソフト面を含めて考えることが大事です。

そこで、本研究室では、地域に求められる建築やこれからの都市像を考えるにあたって、その検討プロセスを重視し、地域調査を経て空間づくりに取り組みます。

また、まちづくりの実践的取組みとして、2022 年度より都市計画研究室と協働し、横浜市十日市場駅周辺地域におけるまちづくりの推進にかかわっています。本取組みは横浜市との協定に基づき実施しているものであり、地域への愛着を育むことを目的として、地域資源(魅力)を発掘・発信する取組みを実施してきました。さらには、十日市場地区におけるエリアマネジメント活動の支援を行っています。

このほか、京急電鉄と川崎市、そして神奈川大学にて産学官連携協定を結び、川崎市内の京急沿線におけるまちの活性化および将来ビジョンの形成に向けて、実践的なまちづくり活動を展開しています。その中の具体的な活動として、八丁畷駅前空地の活用検討を進めています。民間の空地でありながら公共性の高い場所の活用方法を検討するにあたって、社会実験を通じて地域ニーズを調査するとともに当該敷地の管理・運営方法について検討しています。また同時に、空地のデザイン(舗装面やストリートファニチャー)を検討し、実際に施工した上でさらなる実証実験を実施します。



図1：十日市場地区におけるエリアマネジメント活動の支援：活動の方向性を検討するワークショップの様子



図2：Park Line 870(パークラインはっちゃん)：学生が中心となって検討したデザイン案を学生自らが施工し実現した広場

発表論文 1) 民有空地の活用検討プロセスに関する実践的研究 -川崎市八丁畷駅前空地における実験的取組みを事例として-, 共, 日本建築学会技術報告集, 第26巻64号, pp1173-1178, 2020年10月 2) A Research on Community Involvement Complementing Residents' Association -A Case of Voluntary Community Activities in Yokohama Residential Suburb, 共, Asia-Pacific Planning Society 2019 国際会議(Seoul), 2019年8月. 3) 横浜市における創造都市政策と創造産業の立地動向に関する研究, 共, 日本都市計画学会, 49(1), pp.11-18, 2014年4月

所属学会 日本建築学会、日本都市計画学会、文化政策学会

現研究室構成員：准教授 1 人 学部生 3 人

スタンリー・ ラッセル

Stanley Russell (特任教授)

教授室 : 9-63 内線 : 4066

最終学歴 / Stanley Russell (e-mail: srrussel@usf.edu)

1985 年 5 月 Master of Architecture , University of Pennsylvania Philadelphia, PA.
修士(建築)



Stanley Russell

研究分野 建築デザイン

研究題目 建築デザインプロセス Architecture Design Process, サステナブル建築

Sustainability in Architecture, 建築職人技 Craftsmanship, 日本建築 Japanese Architecture

研究紹介

創造性を活かした建築設計をするためのプロセス- 芸術作品と建築デザインプロセスの関連性の研究,新しいテクノロジーを生かした建築デザインプロセスの研究。

サステナブル建築- サステナブル建築の設計の研究及び実践,サステナブル建築の材料の研究と検討。

建築職人技- 日本木造建築の研究, 日本の建築職人の技術の研究及び実践, 日本現代建築における職人技の研究

日本建築-日本建築の歴史の研究, 日本現代建築の研究。

発表論文 1) Design Process Studio, Presentation/Proceedings S-Arch Conference Hong Kong University, 2017 年 7 月 2) Japanese Architecture in the 21st Century: The Role of the Craftsman, Presentation/Proceedings, IaSU2016 conference, Mukogawa University, Nishinomiya, Japan 2016 年 7 月 3)

Cultivating the Craftsman's Eye in Architecture Education, International Journal of Arts and Sciences, Vol. 4, Number 21, 2011 年

所属学会 American Collegiate Schools of Architecture

建築系実験室

準備室：12-13 内線：3463

構 成 員

さとう ひろき

佐藤 宏貴 (教務技術職員) (e-mail: satouh01@kanagawa-u.ac.jp)



佐藤 宏貴

建築学科実験棟

建築学科実験棟 (神奈川県 12 号館) は、1967 年に竣工した国内有数の実験施設です。各実験に精通したスタッフと教員、学生が共同して、大型構造実験をはじめ、音・光環境、温熱空気環境、建築設備などに関する最先端の実験・研究を行っています。本実験施設を利用した企業との産学共同研究も行われており、制振構造や消音機構などの最先端の技術が実物件へ適用されています。



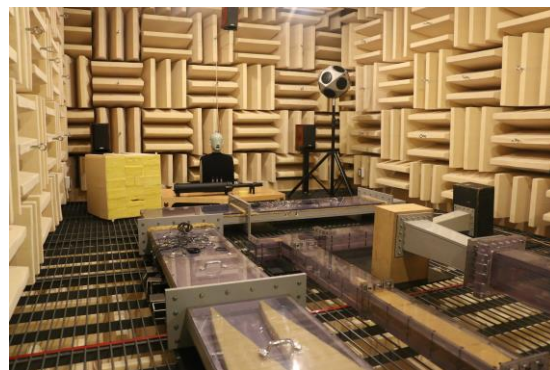
主な保有設備

【構造コース】

- ・ 構造物用動的試験装置 (島津製作所製) 最大能力： $\pm 1,000$ kN (動的： ± 750 kN) $\times 1$ 台、 $\pm 1,000$ kN $\times 2$ 台 (軸力)
- ・ 1軸振動台装置 (島津製作所製) 積載能力：10 kN ストローク： ± 200 mm、最大載荷速度：25 cm/sec
- ・ 多軸仮動的応答実験システム (理研精機製) 最大能力： ± 700 kN $\times 1$ 台、 ± 200 kN $\times 2$ 台
- ・ 5,000kN長軸圧縮試験機 (東京衡機製造所製) 最大圧縮能力：5,000 kN
- ・ 1,000kN万能試験機 (島津製作所製) 圧縮、引張、曲げ載荷 (2.5 mスパン程度)、最大能力：1,000 kN
- ・ 1,000kN材料試験機 (島津製作所製) 圧縮、引張、最大能力：1,000 kN
- ・ 2方向永久磁石地震波振動台載荷設備 (サンエス製) 最大積載重量：3 kN、最大変位：X・Y方向共150 mm
- ・ 起振機 加振力：3 kN $\times 3 = 9$ kN、加振方向：水平最大振幅 ± 250 mm、最大速度： ± 1500 mm/sec
- ・ 疲労・耐久試験システム (島津製作所製) EHF-EV101K1 最大試験力：100 kN ストローク： ± 25 mm

【環境コース】

- ・ 音響実験施設 (無響室、半無響室、低騒音送風装置、統合音響計測システムなど)
- ・ 仮想現実立体視システム (プロジェクター MARQUEE8500/3D、120 インチスクリーン、反射ミラーなど)
- ・ 室内環境実験用チャンバー (冷凍機：日立 RCUJ75A1, 6.7kW、コイルユニット：クボタ DSCM-1、蒸気発生器：0~2.5 kg/h)
- ・ 給湯実験室 (実験室：幅 4.4 m \times 奥 2.7 m \times 天井高 2.4 m)
- ・ インパルス応答の計測及び実時間畳込演算システム (B&K Type 4292-L、7841、Lake Huron、RME TDIF-1 など)
- ・ 多孔質材料垂直入射音響特性計測システム (B&K Type 4206)
- ・ サーマルマネキン (PT-Teknik 社) 身長 168 cm、体重 20 kg、放熱量 0~200 W/m²、最小単位 0.1 W/m²、表面温度 18~42 °C
- ・ ダミーヘッド & トルソシミュレータ (B&K Type 4100)
- ・ FFT アナライザ (HP3566A-32ch、小野測器 DS3000-8ch)
- ・ 非接触レーザー振動計 (B&K Type 3544)



建築ものづくり工房

準備室：31-101-1 内線：2650

構 成 員

かわち ゆき

河内 由希 (教務技術職員) (e-mail: fs112085tg@kanagawa-u.ac.jp)



河内 由希

建築ものづくり工房

当該建物は、建築実習室として竣工しました。1 階は大型木工機械を配置し様々な木材の加工に対応し、2 階には、教室が二部屋あり、研究内容や授業内容によって天井高さの違う二部屋を用途に合わせて使い分けることができる教室を兼ねた工房 B 工房 C があります。

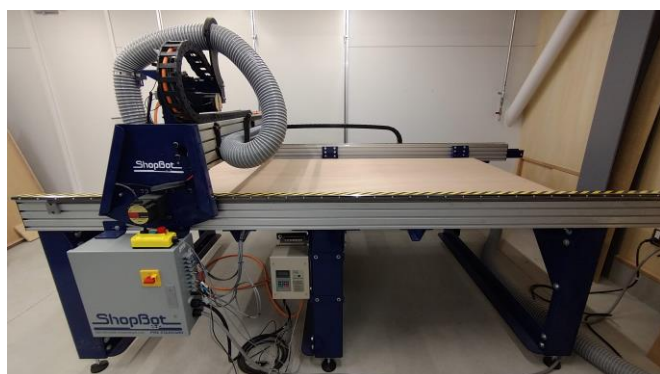
木工機械は、木材料の製作に必要とされる基本的な機械を有し、ものづくりの現場で行われている実際の製作過程が実感を持って体験できます。また CNC ルーターは、デジタルデータを元に 1200×2400 (mm) サイズまでの木材加工を可能としており複雑な形状もデータ通り加工することができます。

主な業務は当学科の授業内容に合わせた木材料の木取・製作・試作と卒業制作や研究室プロジェクトに関わる、様々な試作品の製作・検討の為に利用されます。

主な保有設備

【大型木工機械】

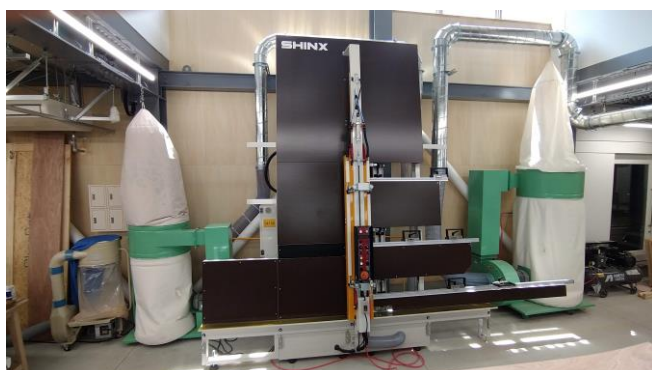
- ・軸傾斜横切り盤 (東海製作所製 SFJ-1300) 1 台
- ・手押し鉋盤 (桑原工業製 KPN-400) 1 台
- ・自動一面鉋盤 (鈴三工業製 GN-45) 1 台
- ・軸傾斜昇降盤 (東海製作所製 NSJ-16) 1 台
- ・パネルソー (シンクス製 SPN1-2400) 1 台
- ・集塵機 サイレンサー付き
(鈴木工業製 型番：DT-5M II 型番：DT-30M II)
- ・CNC ルーター (ShopBot 製 PRSstandard96-48) 1 台
- ・コンプレッサー (アネスト岩田製 TLP22EG-10) 1 台
- ・卓上ボール盤 (HIKOKI 製 B13S) 1 台
- ・糸のこ盤 (マキタ製 MSJ-401) 1 台
- ・バンドソー (京セラ製 TBS-80) 1 台



CNC ルーター



手押し鉋盤



パネルソー



軸傾斜横切り盤